

志水先生の

# なるほどコラム

大阪大学大学院 教授 志水宏吉

## 「つながり」が子どもを支える

子どもたちの学力を伸ばすひとつの手だてとして、私たちが近年注目しているのが「つながり」の力です。

これまで保護者の経済力や学歴が、子どもの学力形成に大きな影響力をもっていることが明らかにされてきました。子どもを習いごとや塾に通わせることや、保護者自身がどのように勉強すればよいかを知っていることは、当然ながら子どもの学力向上につながっていきます。しかし、経済的・文化的に恵まれた環境のもとにある子どもたちだけが学力を伸ばせる、というわけではありません。

最近になって、子どもたちが持つ人間関係の「つながり」が学力を下支えしていることがわかってきました。保護者はもちろんのこと、学校の先生や友だち、あいさつを交わしてくれる近所のおじちゃんやおばちゃん、一緒に活動する先輩や後輩など、子どもたちはさまざまな人間関係のなかで生活をしています。「つながり」とは、こうした人間関係のネットワークを指します。

子どもの学力向上は本人の努力次第である、と私たちは考えてしまいがちです。しかしながら、友だちや先輩・後輩とのかかわりのなかで切磋琢磨することもできますし、また地域の人々とのかかわりのなかで、将来こうなりたい、という「モデル」に出会うかもしれません。もちろん、家庭での保護者との関係、たとえば学校での出来事や将来の話をする 것도、子どもの学ぶ意欲をあと押しします。子ども自身の努力ももちろん大切ですが、実はこうした家庭・学校・地域におけるさまざまな人々との「つながり」が、子どもの学びを支えているのです。

かつての日本には、こうした「つながり」は、どこにでも豊かにありました。しかし、最近では（とくに都市部を中心に）地域での人間関係は希薄化し、家庭や学校でうまくコミュニケーションがとれない子どもの数も増えているように思われます。

このような社会状況のなかで、保護者にできることは、単に子どもの教育にお金をかけたり、勉強を見てやったりすることだけではありません。子どもたちがさまざまな人間関係の「つながり」をつくる機会を増やすこともまた、大切なことです。一緒に地域や学校の行事に参加したり、図書館や公民館といった地域の施設を利用したり、あるいは保護者同士のネットワークを広げていったりすることは、子どもが有する「つながり」を豊かなものにし、きっと彼・彼女の学びをしつかりとサポートしてくれるはずで

# 家庭学習チェックシート

## ステップ1 「早寝、早起き、朝ごはん」



### <チェックシートの使い方>

毎月できた項目にチェックを入れ、  
合計を折れ線グラフにしてみましょう。

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 子どもが毎日朝食をとっている												
2 子どもの起床・就寝時間を知っている												
3 子どものよいところを見つけ、積極的にほめるよう心がけている												
4 「おはよう」「ありがとう」などのあいさつを自らするよう心がけている												
5 子どもとできるだけ話す時間をつくっている												
6 子どもに家事などを分担してお手伝いをさせている												
7 門限やテレビを見る時間など、ものごとのルールを決めて、守らせている												
8 決めた約束をやぶったり人に迷わくをかけた際にきちんとしかっている												
9 学校や地域の活動・行事などに積極的に参加している												
10 子育てや教育についての悩みを相談できる友人や知人がいる												
できた項目 合計												

(できた項目数)

